

# 研究の概要

20 20 年 9 月 11 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	未熟卵体外受精法における体外受精培養を延長した場合の効果について
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック 生殖技術部門 佐藤学
研究の目的：	体外受精—体外受精法 (IVM)は回収される卵子は早く成熟する、または遅く成熟するなどそろっていません。遅く成熟する卵子は通常の体外受精では成長しませんがIVMでは違うかもしれません。そこで遅くに成熟する卵子の発育を調査します。
調査データ該当期間：	2019年1月 ~ 2019年12月
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	IVM採卵で成熟させる培養時間を通常よりも1日長くとり遅くに成熟した卵子も受精させ、移植可能な胚に成長するかを検討。成熟率、受精率、発生率などの体外受精成績が向上するかをこの検討以前に行っていた通常のIVM成績と比較検討します。
個人情報の取り扱い：	研究に用いる患者個人情報の保護を行います。 研究報告により個人が特定されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反状態はありません。
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 生殖技術部門 佐藤学
備考	